

ほのか診察室

HONOKA Consultation room



シリーズ

第 83 話

小児の夏風邪

咽頭結膜熱・手足口病

市民病院 小児科部長医師

影山 里実 監修



という単語には、

【A】感冒症候群：分かりやすく言うと「ありふれたウイルス感染に伴う急性症状」

【B】鼻水・鼻づまり・咳などの症状

という二つの意味があります。

医師が診察室で「風邪」という単

語を使う場合、たいていは

【A】の方の意味のことが多いです。

実際には【A】は【B】をとまなうことが多く、特別に違いを意識する必要もないのですが、ときに

【B】をほとんどともなわない【A】も存在します。代表的なのが「夏

風邪」と呼ばれるものです。

「夏風邪」を難しく定義すると、「春〜秋にかけて流行することが多い色々なウイルス感染の総称」となります。原因のウイルスは一つではなく、代表的なものにアデ

ノ、コクサッキー、エンテロ、エコーウイルスなどがあります。いずれもワクチンなどの予防薬はなく、うがい・手洗い・排泄物の適切な処理などで防ぐしかないのですが、集団生活をしている幼児は必ずどこかの時点で感染します。また特効薬もなく、かかったら自然に回復するのを待つしかありません。

が悪く、はっきり診断できないことも多いのです。

コクサッキー、エンテロ、エコーウイルスは同じグループに属し、臨床症状はよく似ています。主に手足口病やヘルパンギーナと呼ばれる病気の原因となります。手足口病は熱が出ないことも多く、手足にプツプツと赤い丘疹があるだけで元気なケースが多いのが特徴です。こちらは学校保健安全法で欠席を定められています。感染拡大を防ぐため園長先生の判断で休園を指示されるかもしれません。

典型的なアデノウイルス感染は

咽頭結膜熱（IIプール熱）と呼ばれ、下手をすると高熱が5日間くらい続きます。国の定めた学校保健安全法により、発熱後2日間は休校（園）するように定められています。ただし、検査キット（ノドを綿棒でこすって行う）の精度

